

令和4年度学校自己評価システムシート（県立鴻巣女子高等学校）

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切に指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、ICT 関係の整備や教員の研鑽により、ICT 機器を活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 昨年度当初に比べ、教員のICT活用能力は大幅に向上した。さらなる活用を目指すとともに、評価方法や実習授業における扱い等を研究する必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①学科毎・授業毎の年間学習計画を説明し、生徒に学習の目標を明確にさせる。(学年・授業担当) 学期毎に振り返りを行い、生徒各自でまとめさせる。(授業担当) ②授業外の学習(課題・予習・復習)を生徒に具体的に指示し、提出させる。(授業担当) ③授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当) ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、教員間の学び合いを充実する。(複数回実施) ⑤授業におけるICTの活用を図る。(授業担当)	①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②家庭学習時間の状況(前年度との比較) ④研修会等の実施状況と成果 ⑤活用した教員の割合・頻度	新型コロナも以前よりは下火になり、分散登校や時差通学もなく、例年に近い学習指導が行えた。 ①③:学力向上の実感(76.9%→76.7%)課題提出の自己評価(94.4%→94.2%) ②:家庭学習時間の二極化がみられる(1時間以下:81.4%→85.0%、1.5時間超:5.0%→6.7%) ④各種研修会を実施(Classi メディカル、観点別評価、特別支援教育など)を実施し、職員の関係性向上、ICT 能力の向上、新評価方式の理解促進、生徒への対応力向上を図った。 ⑤全教科ともリモート授業への対応は問題なく行われている。通常授業でも多くの教員がICTを活用している。	B	学級閉鎖等によるオンライン授業等への対応はスムーズに行えた。 学力向上を実感する生徒の割合は前年度と同じ高い水準を維持しているが、家庭学習時間は二極化の傾向にある。家庭学習を促進する取組を検討する必要がある。 学習活動での端末利用について、さらに研究を進める必要がある。 今年度の1年生から観点別評価が学年進行で実施となった。評価の方法等について引き続き研究し、共通理解を深める必要がある。
2	(現状) 自立した社会人になれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、一定の成果を得ている。 (課題) 生徒のニーズの多様化に対応した指導方法、オンラインへの対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用し、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施し、生徒の実態を把握することで個々に応じた指導を行い、進路未決定者を減少させる。(担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部) ⑤進学補習や就職希望者向けの特別講座を実施する。(学年・進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ③進路未決定者の割合(前年度比較) ④保護者の進路行事参加状況と成果 ⑤実施回数など	3年生の進路決定は順調であり、本校の進路指導は一定の成果を収めている。 ①基礎力診断テスト等や定期考査の結果をもとに、生徒の学習到達度を把握し、次年度選択科目や卒業後の進路を考える上での参考とした。 ②総探の時間を活用し、進路行事(ガイダンス)の振り返りの指導を行った(進路行事に積極的に参加90.0%→87.9%) ③進路未決定者の割合(5.2%→6.2%) ④学年別懇談会で進路決定の流れ・心構え・決定状況について説明した。 ⑤進路に係る面接指導、論文指導、進学補習を行った。	B	就職は、希望者1名あたり3社超の求人があり、決定も順調だった。 近年、大学の学部の種類が多岐にわたっており、生徒の学部選びの支援を工夫する必要がある。 オンラインによる会社見学や入試出願などが増加している。変化に応じた対応を進める必要がある。 保護者の意識を高めるため、情報発信を積極的に行うとともに、保護者向け講演会の実施などを検討する必要がある。
3	(現状) コロナ禍においても学校行事等を工夫することで多くの生徒が主体的に参画している。基本的な生活習慣の確立や自己管理能力を向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。 (課題) 自己肯定感の育成はまだ道半ばである。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付く」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付く」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の活用方法を説明し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任) 生徒手帳の記入状況を確認することで、生徒の自己管理の状況を把握・指導する。(クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように強い指導を行う。(学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増)	平素からの指導で自己管理能力は高い水準を保っている。個別支援体制も充実している。 ①HR、授業、学校行事(講演会等)で、メモすることが習慣化されている。自己管理能力は高い水準を維持(課題提出の自己評価94.4%→94.2%) ②生活委員会による挨拶運動を行った。マナーへの意識は高い水準である(「あいさつ」の自己評価:97.2%→94.6%)。非行防止教室(ネットトラブル、薬物乱用防止、自転車マナー)を実施した。 ③「CLEAN THE TABLE」の生徒自己評価:98.3%→97.3% ④特別支援教育巡回支援員や本校独自のカウンセラーを活用し、特別支援教育の理解と教育相談体制の強化を図った。(悩みや不安を相談する相手・場所がある:90.8%→86.3%)	A	SNS等に起因する生徒間のトラブルも散見される。非行防止教室の実施はもちろん、平素から指導していく必要がある。 生徒個々の状況に応じた支援体制が充実してきている。生徒理解スキルを向上させ、教員の対応力を磨く必要がある。
4	(現状) コロナ禍により、地域等の催し物・イベント等への参加が難しい状況が続いている。一方、外部の様々な団体でオンラインを活用した取組など、新しい連携方法が試みられている。 (課題) コロナ禍においても外部連携や情報発信はきわめて大切である。また、生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WINの関係づくりを学校全体で進めていくことが必要である。	オンラインの活用などを検討し、生徒の活躍の場をさらに広げ、自己肯定感や自己有用感を高める。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:生徒部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の内容を見直し改善を図る。(担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に適切に対応、生徒が参加できるように支援する(担当) ④オンラインを活用した情報発信や外部連携を研究する。(通年:教務部・生徒部)	①③地域交流等の実施状況と成果 ①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増) ②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増) ④実施回数など	生徒にさまざまな場で活躍してもらう機会を設けることができた。 ①鴻巣市フラワーロード事業(ボランティア)、吹上駅連絡通路壁画事業(美術部)による地域連携の実施。(学校行事に積極的に参加:98.3%→97.3%) ②小学生とのスポーツ交流事業(バレー部)を実施予定(2月)。保育実習は近隣園の協力を得て今年度も実施できた。 ③学校説明会において、生徒会役員や部活動の生徒が活躍する場を設けた。 ④一斉送信メールの配信、HPの積極的な更新、学校通信の発行などによる情報発信。	A	学校HPは年間を通して更新されていたが、さらに本校への理解を深めてもらうため、特に部活動などの情報発信を強化する必要がある。 今後とも近隣とのよい関係を維持し、生徒の活躍の場の確保につなげたい。 学校説明会で本校生徒の活躍を設けることは、生徒たちにとっても、中学生とその保護者にとっても有用である。今後も継続したい。

学校関係者評価	実施日 令和5年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の実施により、子どもが本を買ったり、図書館で借りてきたりするようになった。高校在学中に読書の習慣を養い、お気に入りの一冊ができるとういと思う。 ・96%以上の生徒が「授業5原則」を守れているのは素晴らしい。校内視察の際も、生徒たちが落ち着いて授業に取り組んでいた。 ・ICTの活用については、今後も努力を継続願いたい。
・進路決定率が93%にのぼっている(2/8現在)のは学校の指導の成果である。引き続き、キャリア教育の一層の充実をお願いしたい。	・進学割が増加している現状をふまえ、進路指導のさらなる充実を図る必要があると思う。
・グループ学習で進路について調べたことを模造紙にまとめさせるのは大変よい取組である。	
・「CLEAN THE TABLE」や「身だしなみ・あいさつ」など先生方からの働きかけが生徒たちに浸透している様子がうかがえる。自立した素敵な女性の育成をめざす学校の方向性が正しいことを証明している。	・リモートではない生身の活動は、トラブルも時々あるが、そのことによって生徒は問題解決能力を養い、保護者は横のつながりをつくっていく。
・保育実習前オリエンテーションでの生徒の服装・言葉遣いは模範的だった。	
・今年度の文化祭で、限定的ではあるが一般公開を行ったことで、生徒たちは外部の人と触れ合うことができ、成長につながったと思う。	・生徒アンケートの結果から、文化祭などの学校行事に生徒は達成感を感じていることがわかる。
・生徒たちには、様々な機会を通して自分たちの学校に誇りを持つようになってもらいたい。また、本校の素晴らしさを広くPRしてほしい。	・コロナ禍のため中学校で修学旅行が中止になった生徒たちに対し、フォローアップをしていただきありがたい。
・保育実習は園の職員の勉強にもなっている。	